

「腎がん治療 大きく進歩」

製鉄室蘭病院セミナー

製鉄記念室蘭病院(前田征洋病院長)の「第41回市民公開がんセミナー」が1月31日、室蘭市知利別町の同病院がん診療センターで開かれ、市民らは腎がんの治療の現状などについて理解を深めた。

市民ら約60人が耳を傾ける中、同病院の立木仁泌尿器科長が「腎がんについて、病状に合った治療を選ぶには」について解説した。

立木科長は、腎部分切除手術が標準治療の病期Ⅰや、根治的腎摘除術が標準術式の病期Ⅱでは腹腔鏡手術が可能なことや、免疫チェックポイント阻害薬のオプジーボが次世代の薬物治療の主力となるなどを例に

挙げ「腎がんの治療は、大きく進歩しつつある」と解説した。

また、がんと紛らわしい病気の腎血管脂肪腫や腎嚢胞のうほうの治療法などにも触れ、出席者も真剣に耳を傾けていた。(松岡秀宜)



腎がんの治療の現状などについて解説する立木科長